

日銀事務所長の
あさひかわ経済
ディスカバリー
32

道北企業の金融機関借入

四・〇%です。旭川は「ものつくり」の町とも言われていますが、これが現実です。

前回、旭川の金融機関の預貸率が低いこと、その背景として旭川の企業の借入意欲が乏しい状況にあることに触れました。今回は、この辺りの事情を別のデータにより分析したいと思います。

グラフは、道北地域に本拠を置く六つの信用金庫の貸出金残高の業種別割合を見たものです。これによると、製造業のウエイトはわずかに

て道北の金融機関が貸出に消極的であることの意味するものではありませぬ。金融機関は、収益を得るために企業向け貸出を増やそうとしているのですが、なかなか伸びないというのが実態です。もちろん金融機関サイドも、信用リスクの高い企業には

て将来は望めないものなのでしようか。

以下、三点指摘したいと思います。

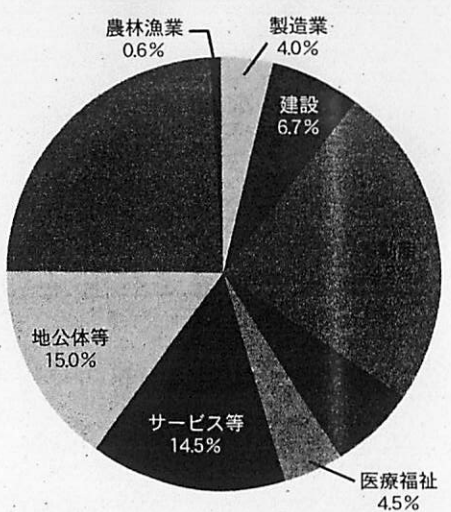
第一は、高齢化はビジネスにとってマイナースばかりではないという事です。特に旭川では流入により高齢者人口が増えていますから、こうした層をターゲットとしたビジネスに目を付け、実際に収益を伸ばしている企業が少なからず存在します。

第二は、道北の企業にとって、道北の市民や企業だけが顧客ではないということですが、多くの観光客やビジネス客が旭川をはじめとする道北を訪

好な状態にあるにもかかわらず、企業の借入が伸びないのはなぜなのでしょう。また、どうすれば道北企業の借入意欲が高まるようになるのでしょうか。以下の点を考えてみたいと思います。

まず、道北地域でも企業の設備投資は、最近それなりに増えてきています。ただ、これらはこのところの景気持ち直しで収益を上げた企業とその範囲内で実施しているケースが多いと思われるので、すなわちストレートに金融機関からの借入に結び付く

貸出金業種別構成比(2017年9月末)



注：道北6信用金庫(旭川、北星、稚内、遠軽、北見、網走)の計
資料出所：各信用金庫ディスクロージャー誌

ケースは少ないようです。もっとも、道北企業の設備投資は、増えているとは言っても地元経済を牽引するほど大きく盛り上がりつつないのも事実です。その背景としてよく指摘されるのは、「道北は人口減少と高齢化が進み、

経済は縮小傾向なので、現在の投資が将来にわたって収益を生み出すか不確実性が高い。従って、経営者は投資に及び腰になっている」というものです。でも、本当に道北の企業にとつ

て道北以外の地域も、道北企業の顧客になり得るといって、とです。札幌や東京をはじめ国内にはまだまだ大きな市場があります。外国に進出すると

このように考えると、地域の人口が減っているからといって、企業が過度に委縮する必要はないのではないかと思われま



【河村賢士(かわむらけんじ)】一九六三年昭和三十七年東京都生まれ。一橋大学経済学部卒。支店は函館・福岡に勤務。二〇一五年平成二十七年六月、国際信用金庫業務課長から旭川事務所長に就任。趣味は登山スキー。

高齢化が進み、経済は縮小傾向なので、現在の投資が将来にわたって収益を生み出すか不確実性が高い。従って、経営者は投資に及び腰になっている」というものです。でも、本当に道北の企業にとつ